

作成日 2014年12月1日
改訂日 2019年 1月21日

安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称
会社名
住所
電話番号
FAX番号

カルナバワン
株式会社ニューホープ
埼玉県坂戸市本町7-17
049-277-5333(代表)
049-277-5334

2. 危険有害性の要約

GHS分類

危険性有害性分類

引火性液体:区分外
可燃性固体:区分外
急性毒性(経口):区分外
急性毒性(経皮):区分外
急性毒性(吸入:粉じん):区分外
急性毒性(吸入:ミスト):区分外
皮膚腐食性・刺激性:区分外
呼吸器感作性:区分外
皮膚感作性:区分外
生殖細胞変異原性:区分外
生殖毒性:区分外
特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露):区分3

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露):区分2

環境に対する有害性

吸引性呼吸器有害性:区分1
水生環境急性有害性:区分1
水生環境慢性有害性:区分1

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険有害性情報

有害

又、眼、皮膚に対して刺激性がある。
長期的影響により水生生物に毒性。

安全対策

換気を適切に行って粉塵レベルがPEL以下になるようにする。

本品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
取り扱い後はよく手を洗うこと。

屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。

涼しい所/換気の良い場所で保管すること。

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

保管

容器を密閉して換気の良いところで保管すること。

涼しい所/換気の良い場所で保管すること。

廃棄

内容物/容器を産業廃棄物処理業者に委託して適切に廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質 化学名又は一般名 成分 CAS番号 官報公示整理番号(化審法・ 分類に寄与する不純物及び 安定化添加物 濃度又は濃度範囲	界面活性剤を含有する混合物(エマルジョン) 自動車用液体ワックス シリコンレジン、ワックス等:10-15% 石油系炭化水素 :20-30% アニオン系界面活性剤 : 1- 3% 水:残量 全成分登録済み保証(企業秘密につき記載できない) 全成分登録済み保証(企業秘密につき記載できない) データなし 100%
---	---

4. 応急措置

吸入した場合 皮膚に付着した場合 目に入った場合 飲み込んだ場合 予想される急性症状及び遅発性症状 応急措置をする者の保護 医師に対する特別注意事項	気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。 水と石鹼で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。 眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用して いて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続ける 無理に吐かせないで、医師の手当てを受ける。口をすすぐこ 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。 吸入:めまい、頭痛、し眠、吐き気、意識喪失。 皮膚:皮膚の乾燥。 眼:発赤。 経口摂取:咳、下痢、咽頭痛、嘔吐。めまい、頭痛、し眠、吐 き気、意識喪失。 データなし 特になし
--	--

5. 火災時の措置

消火剤 使ってはならない消火剤 特有の消火方法 消火を行う者の保護	泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類 棒状放水、水噴霧 消火後再び発火するおそれがある。 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれ がある。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 容器が熱に晒されているときは、移さない。 安全に対処できるならば着火源を除去すること。 適切な空気呼吸器、防護服を着用する。
--	---

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および 緊急措置 環境に対する注意事項 封じ込め及び浄化方法・機材 二次災害の防止策	全ての着火源を取り除く。 環境中に放出してはならない。 危険でなければ漏れを止める。 すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や 火炎の禁止)。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防
--	--

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策 局所排気・全体換気	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、 保護具を着用する。 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換 気を行う。
----------------------------	--

	安全取扱い注意事項	取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 環境への放出を避けること。
保管	接触回避 技術的対策 混触危険物質 保管条件 容器包装材料	『10. 安定性及び反応性』を参照。 消防法の規制に従う。 『10. 安定性及び反応性』を参照。 容器を密閉して冷乾所で保管すること。 データなし
8. ばく露防止及び保護措置		
	管理濃度	未設定
	許容濃度 (ばく露限界値、生物学的ばく露指標)	
	日本産衛学会 (2007年版)	未設定
	ACGIH (2007年版)	未設定
	OSHA	未設定
	設備対策	自然あるいは機械式換気を行ない、防塵レベルをPEL以下にする。呼吸器官を確実に保護する。 作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。 NIOSH認定の防塵マスクを使用する。 作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。
	保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。 適切な保護手袋を着用すること。 適切な眼の保護具を着用すること。
	呼吸器の保護具	
	手の保護具	
	眼の保護具	
	皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣を着用すること。
	衛生対策	取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
9. 物理的及び化学的性質		
	物理的状 形状	液体
	色	淡ブルー色乳濁液
	臭い	弱い石油臭
	pH	アルカリ性
	沸点、初留点及び沸騰範囲	145-310℃(石油系炭化水素及び界面活性剤のデータ)
	引火点	40-45℃(石油系炭化水素及び界面活性剤のデータ)
	燃焼性(固体、ガス)	データなし
	爆発範囲	データなし
	蒸発速度(酢酸ブチル=1)	データなし
	比重(密度)	1.00(25℃)
	溶解度	水に溶解
	分解温度	データなし
	粘度	データなし
	粉じん爆発下限濃度	データなし
	最小発火エネルギー	データなし
	体積抵抗率(導電率)	データなし
10. 安定性及び反応性		
	安定性	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる
	危険有害反応可能性	42℃以上では、蒸気/空気の爆発性混合気体を生じることが強力な酸化剤と反応し、火災や爆発の危険をもたらす。
	避けるべき条件	42℃以上
	混触危険物質	強力な酸化剤。 ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触しないよう注意する。 燃焼の際は煙、一酸化炭素、亜硫酸ガス等が生成される。

11. 有害性情報

急性毒性 経口

ラットLD50 5000mg/kg以上(石油系炭化水素)
ラットLD50 2300mg/kg以上(アニオン系界面活性剤)

経皮

データなし

吸入

吸入(ガス): データなし

吸入(蒸気): データなし

吸入(ミスト): データなし

皮膚腐食性・刺激性

区分外

眼に対する重篤な損傷・刺激性

ウサギの眼に適用した試験において24時間後には眼の反応が消失したとの記述がある。(石油系炭化水素)

呼吸器感作性又は皮膚感作性

データなし

生殖細胞変異原性

皮膚感作性: データなし

生殖細胞を用いるin vivo経世代変異原性試験であるラットおよびマウスを用いた優性致死試験では陰性の結果。(石油系炭化水素)

体細胞を用いるin vivo変異原性試験であるマウス赤血球を用いた小核試験およびラット骨髄細胞を用いた染色体異常試験では陰性の結果。

(石油系炭化水素)

発がん性

データなし

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)

データなし

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)

モルモットを用いた吸入暴露試験において肝臓への影響が区分2のガイダンス値範囲の濃度で認められたとの記述がある。(石油系炭化水素)

吸引性呼吸器有害性

データなし

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性

LC50 2.2mg/L(石油系炭化水素)

水生環境慢性有害性

データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。

汚染容器及び包装

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従う。容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制 海上規制情報

IMOの規制に従う。

航空規制情報

ICAO/IATAの規制に従う。

国内規制 陸上規制情報

消防法の規制に従う。

海上規制情報

船舶安全法の規制に従う。

航空規制情報

航空法の規制に従う。

15. 適用法令

労働安全衛生法

ケロシン 8%、鉱油 12.5%

大気汚染防止法

該当しない

海洋汚染防止法

該当しない

消防法

非危険物(非危険物60%以上含有の為)

船舶安全法

該当しない

航空法

該当しない

港則法

該当しない

PRTR法

該当しない

16. その他の情報

本データシートは、化学製品の工業的な一般的な取り扱いに際しての安全な取り扱いについて最新の情報を集めたものですが、万全ではありません。

新たな情報を入手した場合は追加または改訂されることがあります。

記載の注意事項は通常の実用を前提とした情報提供であり、必ずしも安全性を保証するものではありません。

化学製品に他の化学製品を混合したり、特殊な条件下で使用するときは、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。本データシートの含有量、物理的及び化学的性質等の数値は保証値ではありません。